X29-04　双方向移動型自動搾乳システムにおける乳牛群の自動搾乳機利用性

○森田　茂・富田　翔美・野田頭　昂寿・加藤　万奈・干場　信司・小宮　道士・高橋　圭二

酪農大農食環境

smorita@rakuno.ac.jp

【目的】本試験では自動搾乳システムを活用している酪農場における牛舎飼槽での給与される混合飼料の状況や自動搾乳機内での配合飼料の給与量を調べ、乳牛の自動搾乳機利用(進入回数や搾乳回数)との関係を検討した。【方法】調査は15戸(18群)の酪農場にて、2014年11月から2015年11月までの期間に行った。いずれの酪農場も、双方向移動型(いわゆるフリーカウトラフィック型)牛舎であった。各酪農場に訪問した前日から7日間遡及した分のデータを採取し解析に用いた。あわせて牛舎内飼槽で給与した混合飼料(PMR)および自動搾乳機内で給与した配合飼料の状況を調査した。【結果】平均飼養頭数は、24～61頭／台の範囲にあった。1頭当たりの平均乳量は、25～42kg/日の範囲にあった。各乳牛群の平均進入回数は2.9～5.9回／日となった。また、搾乳回数は2.3～3.6回の範囲にあった。平均進入回数と平均搾乳回数に有意($p < 0.05$)な正の相関が認められた。また、両者の関係には、2次曲線的関係が認められ、飼育頭数が41頭あたりで進入回数が極大値(約4.7回／日)となることが示された。全牛群を用いた平均配合飼料給与量と平均進入回数の間に関連性は認められなかったが、実乳量がPMR設計基準乳量より高い12牛群のデータからは有意($P = 0.003$)な関係が認められた。